



セネガル川流域灌漑稲作生産性向上プロジェクト
(PAPRIZ2) 結果報告セミナー



サンレイ州でのプレスツアー



農業・農村施設省への農業機材の供与式

皆様いかがお過ごしでしょうか。

日本と同様に、セネガルでもコロナ禍の情勢が落ち着いて、諸活動が一斉に再開された感があります。当国の大統領、外務大臣も、国外出張、国内での賓客対応などに大忙しの雰囲気です。

当館でも移動や会合を伴う対外活動を徐々に活発化してきました。

最近では、セネガル北部(セネガル川)で展開している米作支援の案件現場を訪問しました。

PAPRIZ は、2009年から開始して、現在は二期を完了するところです。セネガルでも米が主食の一つであり、国民の食糧確保、また自給率を上げるためには生産量と質の向上が欠かせません。PAPRIZ は、セ

ネガル川流域で行われている灌漑稲作に関連し、灌漑施設の整備・管理、営農技術指導、二期作の振興等に取り組む、包括的な技術協力プロジェクトです。ちなみに、米の自給率は 35～40%程度ですが、セネガル政府は米の自給達成を目標に掲げており、今後 PAPRIZ や円借款事業による灌漑整備等を通じて米の生産量が増加し、自給率の向上にも寄与することが期待されます。

地元では、農業に従事する人たちが今回の訪問を歓迎して音楽や踊りで迎えていただきました。同行した報道関係者によって、日本の農業支援に関する報道が幅広く行われました。

農業分野は、対セネガル支援の中でも歴史が長く主要な分野です。

米作については、セネガル南東部においても支援するための準備を行っており、生産基盤整備や技術指導等をはじめ、地域の特性に応じた天水及び灌漑稲作の協力を行うほか、事業地域が抱える栄養分野の課題にも取り組む予定です。

また、野菜果物作りのため、ニャイ地区を中心に SHEP(市場指向型農業アプローチ)を推進して、農家自ら「作ってから売る」から「売るために作る」へと意識変革を起こし、営農栽培技術の習得や流通業者との交渉等を通じて、農業所得の向上につなげています。

なお、バルデ農業・農村施設大臣列席の下で、農業機材の供与式を行いました。これは PAPRIZ2 における農業支援の一環として、収穫後の米の品質を確保するとともに、農家の生産性向上を図る観点から、脱穀機(70 台)と粃摺り機(100 台)を供与しました。

特徴的なのは、今回の機材はセネガル製ということです。農業への支援と同時に、地元産業の振興に資することを期待しています。

兼轄国への出張も再開していますので、次回以降のお便りで紹介したいと思います。